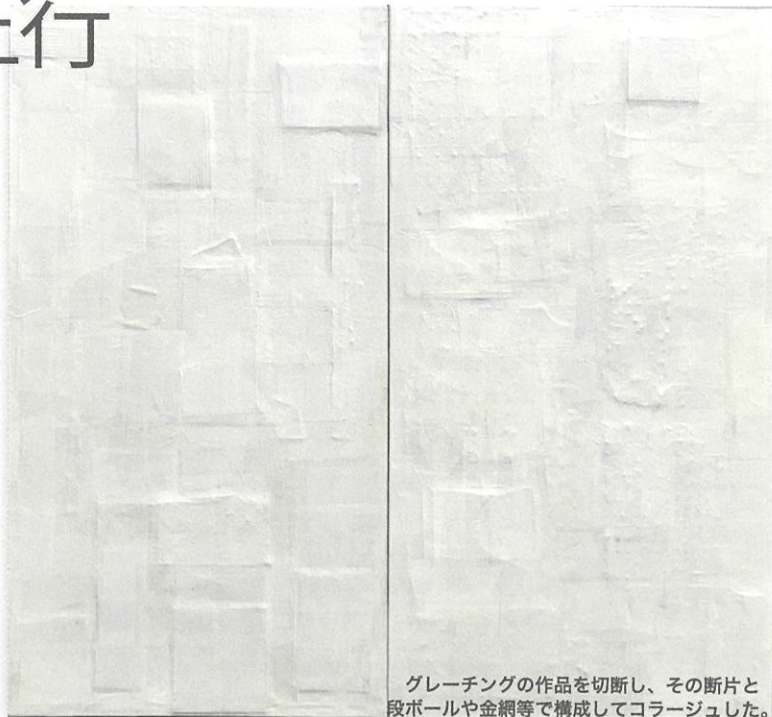


カンベ マサユキ

- 1937 旧朝鮮咸興市に生まれる 終戦翌年、唐津市に引き揚げ
- 1957 大阪府立西野田工業高校卒業 関西電力入社、技術業務 15年間  
その間に夜間の標榜研究所、浪速短大デザイン科卒業
- 1965 第10回新世紀展 初入選 第64回展まで出品中
- 1971 美浜発電所 広報担当（原子力PR館副館長で定年）
- 1979 第22回～24回安井賞展に連続入選 第24回展では賞候補
- 1983 PR館大改装に伴い、2階回廊にギャラリー創設  
地域の作家の発表の場として喜ばれている
- 1985 新世紀展 会員特賞 委員に推挙
- 1987 美浜美術展を企画運営（\*第31回展を継続中）現在、アドバイザー
- 1992 彩水会（はがき絵）（\*第28回展を全国7支部で巡回中）
- 2000 福井県文化協議会 文化芸術賞 受賞記念画集が発行される
- 2007 中日新聞「嶺南ぶらっとスケッチ」 絵と文章を3年間掲載
- 2012 敦賀市教育委員会教育功労賞（美術）
- 2018 若越美術大賞

福井県美展「造形部門」審査員／新世紀展委員／日本美術作家連盟会員  
／美浜町・なびあす自主文化事業企画委員

# 神戸正行



グレーチングの作品を切断し、その断片と段ボールや金網等で構成してコラージュした。重要無形文化財の美濃和紙を何層にも貼重ね、凹凸のある作品は和紙の暖かい地肌が美しい。

墨線《怒》 2018

# 野瀬成夫



1990年代、キャンパスに物を貼付けることに熱中する。2010年頃から体力がついていなくなり、墨線（和紙）の形を利用して、壊して再生する平面作品に取り組んでいる。

ノセ ナルオ

- 1944 滋賀県彦根市生まれ
- 1990 現代美術今立紙展（福井県今立市）優秀賞
- 1992 美浜美術展（福井県美浜町）町長賞
- 1993 日本海美術展（富山市）優秀賞
- 1994 福井県総合美術展 知事賞
- 北陸中日美術展（金沢市）佳作
- アートビエンナーレ京都 第13回美術展
- 福井県芸術祭 芸術賞受賞

《個展》

- 1991 関西電力美浜 PR センター（福井県美浜町）
- 1992 アートハウスギャラリー（福井市）
- 2005 パレア若狭ギャラリー（福井県若狭町）

ナガタニ ミツシロ

- 1943 旧満州牡丹江に生まれる
- 1966 多摩美術大学美術学部絵画科油画専攻 卒業 斎藤義重に師事
- 1967～福井県の小、中、高校に勤務 県立美方高校長、福井県教育審議監
- 現： NPO法人 若狭美&B ネット理事長／熊川宿若狭美術館長

《個展》

東京画廊、村松画廊等、33回

《グループ展》

- 1968～北美文化協会に所属、各種「北美展」に出品
- 1975～若美作家集団設立に参画、各種「若美展」に出品

《主な展覧会》

- 1982 「現代紙の造形」（ソウル現代美術館 / 京都市美術館 等）に出品
- 1992 福井県立美術館企画「福井の美術 VOL.3 <長谷光城>」展
- 2012 金津創作の森企画アート・ドキュメント「長谷光城—はざま—」展
- 2019 「集めた！日本の前衛—山本徳太郎の目—」（兵庫県立美術館）出品

《受賞》

北陽会賞／北美大賞／現代日本美術展大賞  
若狭町政功賞／福井県政功賞／福井県文化賞／瑞宝小綬章

《著作・資料》

作品集『長谷光城』（株 エイデル研究所）／作品集『長谷光城2』（工房 円）  
／『紙の仕事』（工房 円）／『子育てルネッサンス』（株 エイデル研究所）  
／共著『子どもが生み出す絵と造形』（株 エイデル研究所）

## 嶺南ゆかりの美術作家展

主催＝福井県 / 共催＝若狭町  
／後援＝福井新聞社 NHK福井放送局 FBC  
福井テレビ FM福井 福井ケーブルテレビ  
さかいケーブルテレビ 丹南ケーブルテレビ  
ケーブルテレビ若狭小浜 嶺南ケーブルネットワーク

監修＝長谷光城 \*熊川宿若狭美術館長

# 白と黒の世界



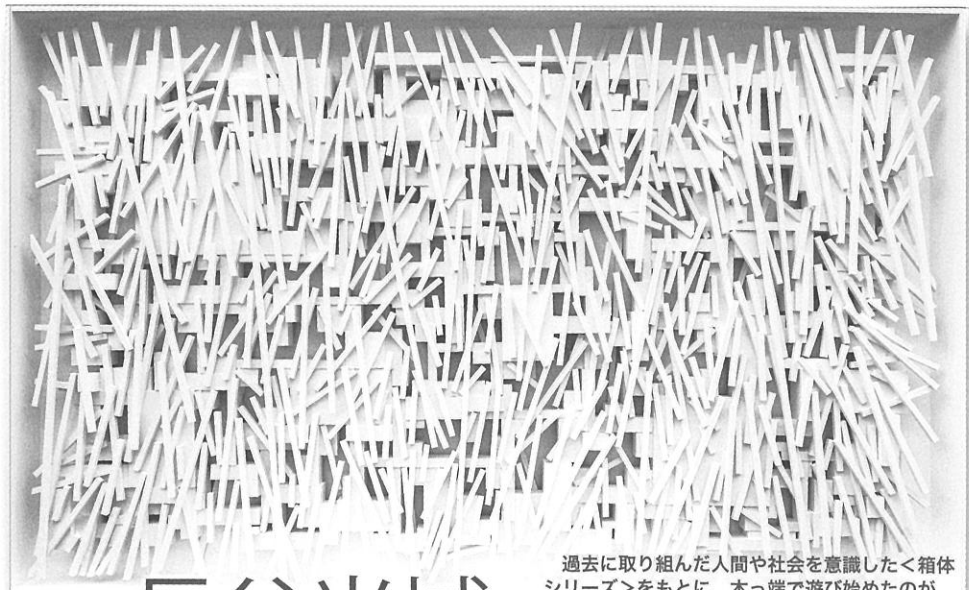
神戸正行 柴田邦彦 長谷光城 野瀬成夫 山河 全

〒919-1541 福井県三方上中郡若狭町 市場18-18 (ハレア若狭)  
Fukui Parea Wakasa ハレア若狭ギャラリー TEL.0770-62-2508

2020 11/4(水) → 15(日)  
OPEN = 9:00 ~ 20:00  
最終日は 17:00 マデ  
火曜(11/10) = 休館日

入場無料

箱体—不定形 II 2020



# 長谷光城

過去に取り組んだ人間や社会を意識したく箱体シリーズ>をもとに、木っ端で遊び始めたのが2016年。木片、細材へと材料を拡げ、混迷する社会を想起する立体でもない平面でもない白色の箱作品。現代社会の構造体は大きく変わるのか。



シバタ クニヒコ

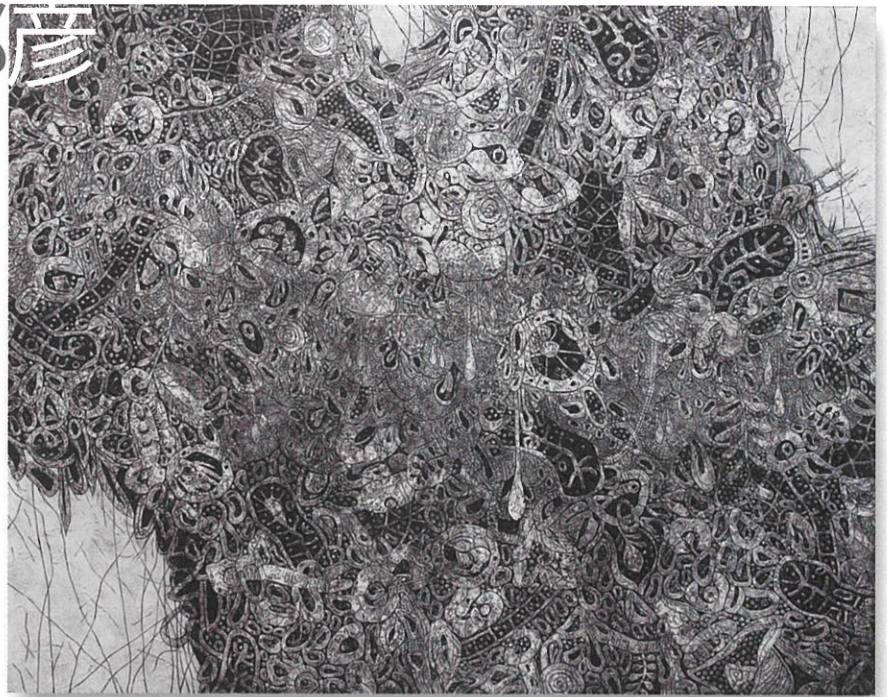
# 柴田邦彦

- 1938 大阪市旭区で生まれる
- 1956 大阪市立工芸高校図案科卒業
- 1990 第35回新世紀展 会員推挙
- 1990~92 第8回~10回上野の森美術館大賞展 入選
- 1998 新世紀美術協会退会
- 2004 敦賀市省見に移住 絵画制作を再開
- 2005 第25回敦賀市総合美術展 市長賞 無鑑査推挙
- 2006 第51回新世紀展 会員推挙
- 2007 第58回福井県総合美術展 福井県知事賞
- 2007~12 中日新聞「嶺南ぶらっとスケッチ」 紀行文と絵を連載
- 2008~11 第21回~24回美浜美術展 入選
- 2011 福井県総合美術展 無鑑査推挙
- 2012 敦賀市教育委員会表彰 文化奨励賞
- 2014 第59回新世紀関西展 大阪府知事賞
- 2015~19 第26回~30回美浜美術展 入選
- 2016 第61回新世紀美術展 和田三造賞
- 2017 第61回新世紀美術展受賞者展(東京銀座 暁画廊)
- 2019 第64回新世紀美術展 新世紀賞

《現在》

日本美術家連盟会員 / 新世紀美術協会会員 / 若狭湾美術作家集団会員

役目を終え、解体されたバイクの部品  
形も大きさもいろいろ  
一つひとつ違った顔を持っている  
駆け抜けた街の思い出を語りかけてくる  
もう一度走りたい  
伝説の花が咲くアマランスの森で  
そんな彼らの願いが叶う



## 嶺南ゆかりの美術作家展

# 白と黒の世界

>>Fukui Art Baton<<

- 神戸正行 敦賀市在住
- 柴田邦彦 敦賀市在住
- 長谷光城 若狭町在住
- 野瀬成夫 美浜町在住
- 山河全 小浜市出身 京都市在住

Fukui Darea Wokosa **パレア若狭ギャラリー**  
2020 **11/4水 → 15日** 火曜 休館日

白と黒の世界と聞けば、マレヴィッチの「白の上の白」、ロトチェンコの「黒の上の黒」と言う絵画を思い起こされる方々も多いと思います。白と黒は色の原点であり、対極的に相反する性質をもっています。白はあらゆる色を拒否し、黒はあらゆる色を含んでいます。

鴨長明は「白き色の異なる匂いもなければ、諸々の色に優れたるが如し」と、白を色にまさる次元の高いものと考えていますし、カンディンスキーは白を「…始まりを前にした無、誕生を前にした無である」と云っています。東洋の美学では「墨に五彩あり」と黒の豊かさを例えています。中原祐介は「黒の非日常化… 表立って見えなくなった隠された色としての黒… 黒に遭遇して一種独特な感慨を覚える」と語っています。

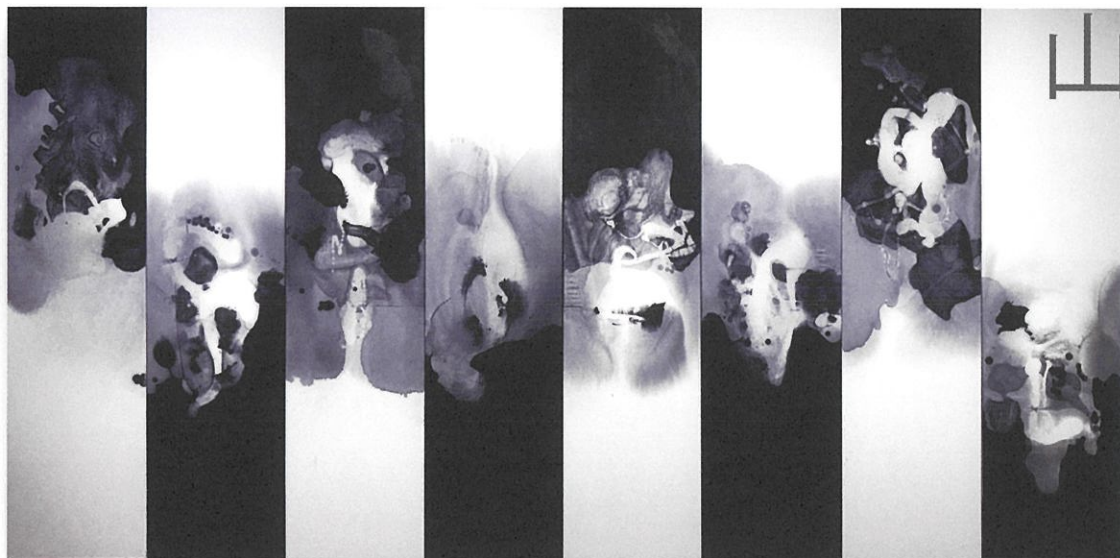
今回、白と黒を表現の大きな要素として、作品制作に挑んでいる嶺南ゆかりの作家5人による作品展を開催いたします。今に生きる私たちに、白

あるいは黒を表現の大きな要素としている作品が、そのことから何を訴えてくるのか、白と黒がどのようなものとして見えてくるのか。

是非ご高覧下さい。 (長谷光城)



TEMPEST 2019



# 山河全

ヤマカワ タモツ

- 1954 小浜市生まれ
- 1982 京都市立芸術大学大学院油画専攻修了
- 1992 京都芸術短期大学(後、京都造形芸術大学 現、京都芸術大学) 講師着任
- 2004 京都造形芸術大学(現、京都芸術大学) 教授就任
- 2020 京都造形芸術大学(現、京都芸術大学) 退任 現、同大学 客員教授

《個展》

信濃橋画廊(大阪) / ギャラリー芦屋(大阪) / 石屋町ギャラリー(京都) / 他

《グループ展》

- 1989~93 「次代を担う作家展」 / 京都府立文化芸術会館
- 1993、95、97 「IMA—絵画の今日展」 / 東京三越美術館
- 1999 「現代絵画の展望展」 / 東京ステーションギャラリー
- 2003 「水を扱う。花を弄する。展」 / 横浜市民ギャラリー / 他
- 2010 「水の表現展」 / 桜ヶ丘ミュージアム
- 2014 「水墨画最前線展」 / 日本橋高島屋美術画廊 X
- 2019 「和紙による三つの方法論展」 / Bremen (独) / 他

近頃、墨をねじ伏せ描くよりその自在性を楽しんでいるが、これがなかなか手ごわく予想通りいった試しがない。紙や水加減で千変万化するためその混沌と向き合い墨に描かされている感も強く、下手な考えは止めておいた方が良さそうである。